

備後教区報

第 153 号

- C
O
N
T
E
N
T
S**
- ◇広島市 8.20 豪雨災害 報告
 - ◇本年度新テキストの紹介
 - ◇ルポ「法座のあり方を問う」
 - ◇微妙の華「盆踊り」
 - ◇学僧逸伝⑬「倉田百三」
 - ◇NEWS & 活動情報
 - ◇予報・インフォメーション



9月30日現在の安佐南区の状況

▽前号につづき、新役員の改選についてご報告いたします。

少年連盟

委員長

世羅組 照光寺 脇本 寿真

副委員長

深津組 光明寺 藤間 幹夫

御調西組 専光寺 藤井 迎朋

委員

中組 光栄寺 佐藤 知水

深津組 慶満寺 松井 一昭

深津組 崇興寺 枝廣 慶樹

鴨川組 浄光寺 小林 朋行

鴨川北組 照専寺 佐々木弘海

沼隈西組 大東坊 那須 智雄

沼隈南組 南禅坊 高階 百壽

神石組 正善寺 熊原 得也

比婆組 妙延寺 尾野 義顕

三谿組 照善坊 福間 真也

三谿組 善徳寺 長谷川憲章

三次組 西覚寺 伊川 大慶

御調東組 大通寺 大淵 英範

世羅組 法泉坊 毛利 令就

キッズサンガ推進委員会

委員長

三谿組 照善坊 福間 真也

委員

中組 光栄寺 佐藤 知水

奥組 増福寺 藤本 直樹
 深津組 光明寺 藤間 幹夫
 深津組 慶満寺 松井 一昭
 鴨川組 浄光寺 小林 朋行
 沼隈西組 西明寺 赤柴 証悟
 三次組 源光寺 福間 玄猷
 御調西組 専光寺 藤井 迎朋
 世羅組 照光寺 脇本 寿真

▽お詫びと訂正

8月1日発行の教区報152号に掲載しました名簿に一部誤りがございました。深くお詫び申し上げます。正誤は以下の通りです。

備後教堂参与幹事会

(誤) 三次組 法正寺 和田邦二

(正) 三次組 法正寺 和田邦二

同朋社会部会

(誤) 比婆組 西念寺 中山忠明

(正) 比婆組 西念寺 中山忠明

門徒総代会世話人

(誤) 沼隈西組 万福寺 寺岡清治

(正) 沼隈西組 善性寺 小林幸司

門徒総代会世話人

(誤) 三次組 真光寺 三吉献二

(正) 三次組 西福寺 藤谷博義

仏壯連盟役員

(誤) 三谿組 立泉寺 平岡 誠

(正) 三谿組 明覚寺 平岡 誠

《願記》 門徒総代届について

○門徒総代の人数は？

各寺々則の第20条に、「この寺院の諮問機関として、門徒総代○人を置く。」とありますので、各寺門徒総代の定員をご確認ください。門徒総代届にはこの定員数で届出なくてはなりません。寺院で設けられている世話人方を「総代」と呼んでいるケースもありますが、門徒総代の定員は、あくまで寺則に定められた定数のことを指します。

※定員数の変更を希望される場合「寺則変更承認申請」により、寺則第20条の変更が必要となります。

○任期は？

(門徒総代の任期及びその解任) 寺院規程第28条

「門徒総代の任期は4年とする。但し、再任することができる。

2、門徒総代がその職務の執行に当り、正しくない行為のあったときは、住職は責任役員の同意を得て解任することができる。

3、住職は門徒総代を委嘱又は解任したときは速やかにそのものの氏名、住所その他必要な事項を総局に届け出なければならない。」とあります。

尚、期間は責任役員の任期(4年)と同様でなければなりません。また任期満了後は、人員の変更・再任を問わず、門徒総代届の提出が必要です。

※自動更新ではありません。再任の場合でも門徒総代届が提出されなければ、任期切れとなります。さらに事情により任期中の退任者が出た場合、欠員補充の必要があります。その際も、門徒総代届によって新任者を届け出ますが、新任者の任期は前任者の残任期間となります。

○提出

門徒総代届の提出先は教務所です。冥加金は不要です。書式は本願寺ホームページからダウンロードされるか、教務所にお問い合わせください。

○提出届出は？

宗教法人法に従い、責任役員同様、毎年4月1日～7月31日ま

「御同朋の社会を目指す運動（実践運動）推進僧侶研修会」開催へ向けて

本年度、研修テキストのご紹介

昨年度、備後教区全16組におきまして「過去帳又はこれに類する帳簿の開示問題」に学ぶ——現在の部落差別と『身元調査』の実態——をテキストとして「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）推進僧侶研修会」を開催し、寺族・坊守など多数のご参加を頂きました。その後、2014年2月に本山社会部へ人権担当問題より「過去帳又はこれに類する帳簿の取り扱い基



準」と「過去帳又はこれに類する帳簿の取り扱いについて」が発表されました。

その改正のポイントを踏まえて本年度は、昨年度に出されました問題点や課題を継続して学ばせて頂きたいと思っています。

「基準」と「取り扱いについて」の改正内容の周知徹底と、過去帳やそれに類する帳簿に関する様々な問題点と課題を共に考え、共に学ぶために新たに「研修テキスト」を作成致しました。

ご一読頂きまして、各組での研修会に参考にして頂ければと思います。

研修の流れ(例)

前半は「研修テキスト」で学習

○昨年度の研修を踏まえ、「研修テキスト」を参考に「過去帳又はこれに類する帳簿の取り扱い基準」改正のポイントを押さえ、取り扱い基準を周知徹底する。
(「過去帳等とは」の確認)

○過去帳が身元調査に利用されてきた歴史や身元調査への市民意識を学ぶ。

でに所轄庁に名簿の写しを提出する義務があります。任期切れのないようご注意ください。

後半は話し合い法座で

○昨年度に出された具体的な事例を全体で共に考えて行く。

(「研修テキスト」2013年度の具体的事例参照)

①何が基準となるのか、しっかりと把握して、応用問題を考える

☆寺院の持っている情報を誰に開示するのか

- ・過去帳—直接の遺族(当時者)
- ・過去帳等の内容についても、過去帳に準ずる

☆過去帳は誰に対しても、現在閲覧禁止

- ②様々な個人情報開示について皆で一歩進むよう話し合う
- ・寄付の張り出し等—組内でどうすれば一歩でも解放への歩みとなるか、現状を踏まえた上で、話しをする。

法座のあり方を求めて

ル

ポ

布教使課程布教実習を受けて

備後教区は3日間12組20会場にてお引き受け。そのときの「座談会」で様々な声が…。



備後教区では布教使課程の布教実習を8月26日(火)から8月28日(木)の3日間、12組20会場にてお引き受け致しました。

会所をご提供の皆さまには大変お世話になり、誠に有難うございました。

このたびの布教実習は、備後、安芸、大分、奈良と4教区に分かれ行い、布教使を目指す実習生には現場に立つ原点として心に残る尊い法座となりました。現在は開講期間中(4月から9月の間)、6月、7月、8月と3回の現場実習を行い、実践力のある布教使であると共に即戦力になる布教使が求められるようになってきました。それはこれまでの布教が間違っていたということではなく、現場である寺院やご法座・布教を取り巻く環境が急速に変化している現状があります。法座数や参拝者数が変わっていく中であつてこの度の布教実習の現場の声を通して寺院と布教使とが共に作り上げていくご法座のあり方(方向性)を考えてみたいと思います。

(文責・教区報専門委)

■住職らの声

○ご本山からご講師を迎え、自坊で聴聞させて頂くという尊いご縁の中で、いつもの法座と違う雰囲気(寺族やご門徒の方にも緊張感)があり、大変有り難かったです。

○いつもお参りされない方もお参りされていた。今後の法座活動が活性化できるなら有り難い。

○丁寧に、まじめにご讃題(ご和讃)を平易にひも解いて、話して下さったことが有り難かった。

○大きくはつきりとした口調で姿を見ても緊張されていることが伝わってきた。こちらも緊張した。

○次の寺院への移動時間等もありゆっくりと寺院に滞在してもらい、反省会をすることができた。

○寺院住職との交流がもつとできれば現場の声を実習生にお話することができるのだが。

○一座ではもつたないなので、座数を増やしてじっくりお話を聞きたかった。

■門信徒の声

○ご本山からわざわざ来訪してくださったご講師の法話を自坊で聴聞させていただくという尊いご縁にお会いすることができ大変、有り難かった。逆にご本山へもお参りしなくては。

○大きくはつきりとした口調で丁寧にお話くださり、大変聞き易いご法話であった。指導のご講師のご法話途中の間の取り方は、素晴らしく、驚くばかりであった。

○実習生の真摯なお取り次ぎのお姿が有り難かった。

○自分の体験を踏まえて、身近な話材が聞き易かった

○いつもの法話は眠い、長い、わからない、けれども今回は寝なかった。



▲会場 鴨川組 正覚寺



◀会場 芦田組 慶照寺

▲▲会場 三次組 立泉寺



それぞれのお寺にて工夫をしていただき法座の後に座談会を開いてくださいました。その雰囲気とご感想は今後の法座のあり方に大きな方向性を示すものではないでしょうか。

意外にも法話に関してのご意見やご感想を話して頂く機会や座談会は少ないのかもしれない。

法話の批判ではなく、法味愛樂(よろこび)を語り合う機会や座談会が増やしていければいいのかもしれない。お寺の声として、今後の寺院活動や法座の活性化をどのようにしていくのか、緊張感をもって法座に臨むためにはどうすればいいのか、という課題を頂いたように思います。

またご門徒の声として、厳しい意見もありますが、緊張感のある丁寧な、真摯な僧侶や布教使の態度が求められているようです。この度の布教実習を通して、実習生が緊張して布教させて頂いた現場がこれからの原点であるように、我々も初心を忘れず勉学布教を怠りなく取り組みたいと思います。

寺院活性への道

微妙の華

Mimyouno Hana

盆踊りを通じて

思い出作り

「縁作り



「地域の中心として」

法泉寺

(御調西組・小島照行住職)

日時 八月十四日夜席後

子ども会・壮年会・女性部など地域の各種団体が屋台(焼き肉・ビール・金魚・綿菓子・焼きそばなど)を出店。地域の夏祭りとして境内で三十年続いている。

夜7時〜お勤め・法話・子ども向け花火・盆踊りが基本形。そして、その時々のご縁で、阿波踊り(も

「語り合う若者」

浄楽寺

(世羅組・栗原一乗住職)

日時 八月十三日夜七時半

お寺は、その昔から地域の中心でありました。布教伝道は当然ですが、保育・教育・芸能・娯楽・更生保護・よろず相談など、多方面にわたって地域の中心、まさに人々の「依るところ」だったのです。夏の盆踊りは、中国のお経・盂蘭盆経が起源とされていますが、時代の影響や人々の願いを受けて、現代まで伝えられてきました。

その一コマを紹介しましょう。

「仏縁として」

覚善寺

(三次組・常光和信住職)

日時 八月十三日夜七時半

仏婦・門信徒会が共催で実施し、今年で二十六回。青年団活動が盛んになった時代、盆踊りも盛り上がりを見せ、各地区対抗の盆踊り大会となっていく。しかし、参加人数が増えたことで、会場がお寺から地域の学校や集会所に移るようになった。覚善寺では、あらためて仏教行事として開催することとし、境内で踊る盆踊り(親鸞音頭・三次音頭・炭坑節)がメインになる。屋台が踊りに花を添え、たこ焼き・フライドポテト・ビールなどが無料で振る舞われる。終了後は慰労会も。ご住職は、「高齢化の中で夜のお参りが少なくなっているが、若い世代のお参りを楽しみに待っています」



▶法泉寺の盆踊り

みじ連)や沖縄エイサー、地域のおやじバンドなどを招き、この夏祭りに合わせて帰省する人たちも多く、二百人は優に数えるそうだ。まさに、「ここに行ったら会える」と言われているようで、「お寺で行われる盆踊りを大切にしたいし、お寺が地域の中心であり続けたいと思っている」とお話を聞かせてくださいました。

お寺の境内で長く続いていた盆踊りも昭和四十年代に途絶え、広場での地域の盆踊りと移り変わっていききました。平成九年に退職しお寺に帰った時、総代長さん達から「お寺の境内での盆踊りを再開してほしい」との要望ができました。当初は踊りとビンゴゲームをするくらいでしたが、地域の方が出店を出そうと声をあげてくださり、現在では、たこ焼き・イカ焼き・綿菓子・かき氷・子どもが楽しめるゲーム(棟

◀ 浄楽寺の盆踊り



ご住職の一言「いつまで続けられるかわかりませんが、ボチボチとやつていききたいと思います。」

「こんな口説きも」

どれもどなたも踊り子さまよ
わしの口説きはうら盆口説き
拍子かけ声シャンシャとたのむ
今宵今晚盆会のお座に
お盆のいわれを申するならば
昔々は千年昔

まだも昔はそのまた昔
釈迦がこんくの説法の御座に
仏の弟子が一千余人
あまた御弟子のあるそのなかで
ことに優れし目連尊者
修行かのうた神通力で
地獄極楽みなお見通し
母を訪ねて六道巡り
ひよつとのぞいた餓鬼道の世界
こともあろうに母じやの姿
羅漢生むような母君様も
我が子かわいさ邪険の罪の
報いあらわれ哀れな姿

梁さん(手作り)等があり、狭い境内がにぎやかになります。売り上げも少ない中、毎年協力してくださることは本当に有難いことです。
帰郷された方々がお寺を再会の場所として来られ、語り合う姿を見ていると、今年もやってよかったですと思います。時には朝まで語り合っている高校生もいます。

供養の御食とらんとすれば
燃える炎でのどを焼く

あわれいとしや母上様を

「救う手だてはいかに」と問えば
釈迦はのたもう

「阿弥陀をたのめ」

たのむ一念母上様は

蓮の花咲くお浄土参り

あらうれしやと目連尊者

手振り足ぶりおかまいなしに
踊った身振りがこの盆踊り

さあき皆さん遠慮はいらぬ

今宵はうれしいお盆のお座じゃ

男子、女子も上手も下手も

老いも若きも輪に入りなされ

「救う手だてはいかに」と問えば
釈迦はのたもう「阿弥陀をたのめ」

この一言があることで、まさに
浄土真宗の盆踊りと昇華されるの
でしょう。お念仏とその聴聞を重
ねる豊かな土徳がこのような口説
きを生み、救いのよろこびを伝え
てきたのでしょう。

思い出作りがご縁作りとなり、
阿弥陀様の願いにまで触れること
ができる盆踊りは、これからも
色々な形を経て、伝えられていく
でしょう。従来の盆踊りに手を加
え、様々な夏の集いをされている
お寺や地域があるようです。
ぜひ、ご一報いただきお話を
聞かせください。また、教区報に
もご紹介させて頂き、新たなご縁
作りのお手伝いをさせていただき
たいと思っています。



▶ 三次組源光寺の盆踊り

Close-Up-Bingo

備後学僧逸伝
其の13

作家 倉田百三
明治24年(1891)～昭和18年(1943)

五木寛之『親鸞』が新聞紙上で掲載され話題に上った今から約百年前、庄原出身の倉田百三が『出家とその弟子』を発表し大ヒット。世に歎異抄や親鸞ブームを巻き起こした。近代以降の吉川英治、丹羽文雄、三国連太郎、津本陽らと比べても先駆的存在といえる。また中国出身で知日を薦める毛丹青教授が「日本最高の文学作品」「現代社会の縮図」と絶賛している事にも注目したい。(敬称略。文責・教区報専門委)



▲百三広場の碑(庄原グランドホテル内)



▲ロマン・ロランの手紙

プロフィール(倉田百三文学館より)

序曲「死ぬるもの」からはじまる戯曲『出家とその弟子』(注ⅰ)は、倉田百三が26歳の時書き上げたものである。その作品はフランスのノーベル文学賞受賞者ロマン・ロランも絶賛(注ⅱ)し、世に迎えられて当時ベストセラーとなった。

百三は、明治24年¹⁸⁹¹今の庄原市、当時広島県三上郡庄原村の呉服商の長男として生まれ、昭和18年¹⁹⁴³52才で没した。県立三次中学校に進み、同席の歌人中村憲吉(注ⅲ)と親交し、共に文学熱旺盛で「白帆会」という文学部をつくり、回覧雑誌を発刊した。哲学を志した百三は、家業を継がせようとする父に「哲学することは人生いかに生きべきかを追求することである」と説得し、東京第一高等学校に入学した。

哲学者西田幾多郎(注ⅳ)の『善の研究』に出合つて驚天動地の感銘を受けた彼はますます哲学に傾倒していった。この頃、結核を発病し、大正2年¹⁹¹³一高を退学した。この間、一高『校友会雑誌』に『他人の内に自己を見出さんとする心』『愛と認識との出発』を発表した。

一燈園を開いた西田天香(注ⅳ)を知り、大正4年¹⁹¹⁵一燈園に入り托鉢

行願を基礎にした共同生活に入る。

この頃、『出家とその弟子』を書き始め、大正5年¹⁹¹⁶12月完成、大正6年¹⁹¹⁷岩波書店から出版される。

退学、病氣、失恋と不幸を一時に身に受けた百三は、四季を通じて今なお美しいふるさとの山の湖、上野池(注ⅴ)でその痛手をいやした。

妹艶子(1988没)は、「兄、百三にとつて上野池は宗教的恋人でした」と。

百三という「青春は短い。宝石の如くにして、それを惜しめ」と。

【倉田百三の影響】

現代に伝わる日野左衛門の逸話(酒に酔つた左衛門が一夜の宿を求め親鸞と弟子に対し、暴言を放ち、杖で打ちすえて追い出す)の多くは、実は『出家とその弟子』の影響を受けた人物像がほとんどである。

この作品は百三の病、死、愛や罪の問題、人生の挫折、青春の苦悩、憧憬、情操などが盛り込まれて、夏目漱石と並び岩波書店の経営を安定させる程の売れ行きを示した。

背景は論集『愛と認識との出発』に詳しく、この作品もながく日本の青春二大書として愛読されている。

彼の作品を読んで宗教的情緒に関心を持った人も多かったようだ。

▲倉田百三の誕生地に建てられた石碑



《脚注》

- (i) 「出家とその弟子」は親鸞聖人を題材とした戯曲。大正5年11月から6年3月まで同人雑誌『生命の川』にて連載。同年6月に単行本として岩波書店から刊行。大正8年、有楽座での上演(岡田嘉子が熱演)を皮切りに何度も舞台上演される。
- (ii) 大正11年にグレン・ショウによって英訳がなされ、之を読んだロマン・ロランが「百合と蓮の花、すなわちキリスト教と仏教の調和がある」と絶賛。本作品がベストセラーになったことは昭和2年3月の時点で300版を数えたことでも判明するだろう。
- (iii) 中村憲吉は、三次市布野出身の歌人。三次組真光寺門徒。百三は一高時代に彼を通じて斎藤茂吉らと知り合い、大正12年に憲吉同様「アララギ」歌壇に入会した。
- (iv) 西田幾多郎は日本を代表する哲学者。鈴木大拙は同郷の同級生で、京都帝大で教鞭をとり西谷啓一らを育てた。『善の研究』(明治44年)による純粹経験の哲学は独我論に陥つた百三を救うことになる。
- (v) 西田天香は、当時名を馳せた宗教者で百三は彼に師事し、懺悔奉仕の共同生活を行う。一燈園の祈禱は各宗派の祝詞や、山上の垂訓、陀羅尼、観音経なども用いた。信者に「ダスキ」創業の鈴木清一が有名。
- (vi) 池周囲に広がる丘陵地に「森の沼」や短歌を刻んだ百三を顕彰する文学碑が地元の人達により建てられている。

親鸞と唯円を題材にした戯曲『出家とその弟子』を書き、ベストセラーに

【百三の育った家庭】

倉田百三を紹介するにあたり、まずは郷土との関わりを述べたい。

百三は裕福な呉服問屋の家に姉4人と妹2人に囲まれた只一人の男子として生まれた。父は浄瑠璃を好み、時には町の素人浄瑠璃会を家で開催した。庄原唯一の劇場をもっていた事は家を明るくし、子供時代の百三は「学校ごっこ」と「芝居ごっこ」をして遊んでいたという。

家は浄土真宗(比婆組勝光寺門徒)で父は門徒総代をつとめ、家族は朝夕に仏壇前で正座して礼拝し、子供たちも母や祖母に連れられ墓や寺詣りの伴をしていたという。

また母の妹シズは篤信の念仏者で三次の宗藤家(三次組照林坊門徒)に嫁ぎ、妹・重子も養女となった。

百三も中学へは宗藤家に住んで通学しており、叔母シズの影響で『歎異抄』の内容に触れたようだ。

『出家とその弟子』はこの信心深き叔母に捧げたものと記されている。

また近隣の父方親戚・佐々木家は姉・雪子が養女となっているが、この義母も篤信家で、『出家とその弟子』を書くために参考にした本は彼女から貸し与えられたそうだ。

【学力優秀な少年】

庄原は福沢諭吉が慶応分校と呼んだ英学校が創建されるなど早くから学問が進んだ地であるが、犠牲を惜しまぬ父母の愛の深さもあつて百三は自由奔放に個性強く育ち、幼少期から頭脳明晰で向上心も旺盛だったようだ。37年¹⁹⁰⁴に旧制三次中学に入學、同級生には中村憲吉の弟で生涯の親友・香川三之助や輦の浦出身の酒井がいた。酒井は音楽と英会話に達者で彼に幻滅されることを怖れた百三は都会の文化に触れるため一年間休學し、姉の嫁いだ尾道で過ごし、たりした。又、休學中に第六高校(岡山)に進學した三之助に触発され、全国の中学生の憧れで最難関の第一高校(東京帝国大学予科)を希望する。しかし三次十日市に住む娘と恋愛し、彼女と結婚できるならば家業を継いでもいいと婚約するも相手方の事情で引き裂かれた。失意の百三は再び家業を継がず、哲学をする事、一高に行く事を主張したという。



▲倉田百三の文学碑
(三次高校=旧三次中学)

【利己主義と独我論に陥る】

こうして43年¹⁹¹⁰に第一高校乙類文科に入學。同期には、芥川龍之介、菊池寛、久米正雄らがいて、百三は彼らと同様、文芸部に属した。

理論的懐疑と哲学的煩悶を重んじた百三は人生の疑問や矛盾を追求し、トルストイ、カント、ニーチェ、ウィリアムジェームズ等の哲学思想を学びつつ、思索の毎日を送った。

44年¹⁹¹¹頃はショーペンハウアーの影響を受けて、やがて極端な独我論(自分以外のあらゆるものは信用できない、という認識論)に達した。

百三は利己主義を合理的と肯定し、それに力の欠ぐべからざるを説いて行動に移した。即ち友人も「幻影」と親友・三之助との交わりも涙ながらに断ち、力(利己的立身出世)を欲して、文科から法科に転じた。

これは自らに無理を強いて懊悩を深める結果になったが、『善の研究』(独我論を解決した西田哲学)に触れることで活路を見出し、利己主義から解放された。45年¹⁹¹²には岡山の三之助のもとで旧交を温め、更に西田幾多郎に会うため京都に赴いた。こうした思想的動揺を経て百三は次年度再び文科へ復帰したようだ。

【善と悪の観念】

ところで百三は44年9月に法科に転じた際に弁論部に入部している。弁論部で同期生の矢内原忠雄(後の東京大学総長)とは関わりが深い。彼は一高で新渡戸稲造校長や内村鑑三の影響を受けてキリスト教徒となつた信仰の人で、神の愛によりて純粹に謙虚に、正しくあらうとする模範的な善男子であった。

いわば懷疑主義の百三にとって、自己の理想を高く掲げて信念を吐露する確信主義の矢内原は対照的な人物であり、幾度も論争したようだ。

大正2年、同期生総代をつとめて先に卒業していく矢内原に対し、百三は校内会雑誌で『生活批評』を寄稿する。

▼百三が友人に送った第一高校の絵ハガキ。



44年2月、徳富蘆花が『謀叛論』を第一高校の弁論部大会で演説。これは世間に衝撃を与えるが、その渦中で百三は弁論部に入部した。

この矢内原批判の文は「自然児として生きよ、Y君に与ふ」と改題して『愛と認識』に収録されている。

「あなたのモーラリチー(道德観)というものを私は深刻だと思ふことができない」「あなたはもつと心の目をもつと深く、鋭く、純にして、人生を眺める必要はありませぬか」と批評。更に彼が学内で学生たちに軽々しくキリスト教の宣伝をしている問題にも厳しく言及した。

「私は彼らの信仰を疑わずにはいられない。ああ迷いが小さい、疑いが浅い。悪を容れ得ぬ者は最も貧しき者である。最も深遠なる宗教は墮落を包容する宗教である」但し之はキリスト教を批判したわけではなく「いわゆる正しき連中」の矢内原に対し「いわゆる悪人(注Ⅶ)」を代表して、善悪の観念(常識)について、内省を促したといえる。

更に同年4月、菊池寛の退学事件が起った事にも注目したい。(注Ⅷ)

このとき菊池は長崎に激怒して、「君は下らない聖書なんかよして講談本でも読んで常識を養い給へ」。「倉田の生活批評を見給へ、そして君や矢内原君などと違つた一種の真面目さがあるのを知り給へ」と語っている。関連性が窺い知れるだろう。

【批判によって信仰に近づく】

ところで矢内原は中学時代にはキリスト教を知らず、同級生の牧師の息子が自由を尊重する談話をしたこと、保守的な校風主義者の彼は「キリスト教はけしからん」と、弾劾制裁した事もあったという。

その結果、矢内原は逆にキリスト教へ近づいて行く事になるが、実はその土壌を作った人物の一人に**島地雷夢(島地黙雷の子)**がいる。

雷夢は第二高校(仙台)在学中に、キリスト教の洗礼を受け、東京帝大卒業後は須磨で療養し、矢内原のいた神戸中学校で修身を教えた。

矢内原は彼の授業は型破りで教養広く、文学味豊かなもので、心を養う授業であった、と心酔する。(注Ⅸ)

そういった経験をもつ矢内原は、後の応酬の中で「私は思想の豊富、頭脳の明晰、何を以てしても倉田君に比すべきにあらず」「しかし彼は神を信じようとしな。私は彼を愛し尊敬するが彼の意見には賛成しない」と語り、百三の求めた懐疑の方にいくのではなく更なる内省と謙虚さをもつて一層純粹で強い信仰へと近づいたことになったようだ。(注Ⅹ)

百三も矢内原との経験が後の自分

にとつて深く良い影響を及ぼしたと述べ、自らもキリスト教的主義に惹かれる因縁の一つとなったようだ。

(Ⅶ) 学生時代に欠席、乱酒、放蕩、怠惰、借金で生活は荒れ、落第。やがて退学した百三はエリートコースを外れていく。又、日本女子大に通う妹の同級生との恋を「他人のうちに自己を見出す心」として校内会雑誌に発表し、愛に生きた百三は一高でも代表的な悪人に見えただろう。

(Ⅷ) 菊池の親友で百三の遊び友達であった佐野文男が、百三妹の艶子とデートをするためマントを無断で借用し質入れしたことが問題となり、菊池はその罪を被り処分を受けた。友を守るため弁明もしなかった菊池だが、クリスチャンの同級生・長崎だけは真実を語って他言を禁じた。だが長崎は良心と愛情から二人を助けるために行動し新渡戸校長に相談するが、結果的に菊池も佐野も退学処分となった。

菊池は「君の愛とやらのせいで俺は一生を棒に振ることになった」と激怒した。

(Ⅸ) 矢内原は後に雷夢がクリスチャンであることを知り、「彼はキリスト教を伝道しようとしたのではないが、キリスト教の信者の心の在り方を示し、光を我々の心に投じた。これは私自身の精神史上、欠くことの出来ない1頁であった」と回想。但し、この頃の雷夢はキリスト教信仰を離れた仏教者であったとも言われている。

(Ⅹ) 矢内原は「倉田君もわれの恩人なり、但しわれは倉田君や佐野君の如くにして神を見出すこと能わず」と述べている。

【失恋と病氣と退学】

さて異性に自己を見出し充実した精神生活を送っていた百三の恋愛は冷たく嫌な感じに終わり、それにより肺結核をこじらせ、更に文芸部に寄稿の論文が検閲され、大正2年¹⁹¹³に一高を自主退学する事になった。

毛の抜けた犬のようなミゼラブルな身を夜汽車に運ばれて、神戸須磨に転地し、翌年¹⁹¹⁴には友人酒井を頼り備後鞆の浦で過ごしたが、百三はその生活を「孤独の部屋」と評し、「私が女に赴いたほどの純熟をもつて私は霊の生活に入っていきたい」と故郷庄原に帰り、上野池の畔で独居。

その頃、庄原には外国人宣教師が2、3人来て熱心に布教しており、町の若衆によつて教会の提灯に石を投げられるなどの迫害もあった。

百三はこのアライアンス庄原教会の人達と親しく関わり、教会に行く以外は一切町に出ることなく「調和を保つアリストクラート(聖職者)の心」を得ることを求めた。

同年から翌年¹⁹¹⁵にかけて、別の病をえて広島病院へ入院、3度の手術を受ける。苦難の連続に百三の本質的命題とは「人間の悲哀と調和と救済」となり「真の愛はもつと実践的な、そして祈禱的な、悲しい濡れたものでなければならぬ」と感じるようになった。

唯円の遊女との恋、親鸞と善鸞の親子関係など、苦悩の内面を描く

入院中、晴子（後に百三と結婚）と出会い看護を受けるも病氣は快方ならず別府で療養。純粹な愛の理想を求めながら、犠牲（晴れやかな眺めと空氣、居心地よき部屋、善き友、書物、美しき妻を得たき願い、性への要求を捨てることの出来ぬ自分）に苦しむ。

毎日聖書を読んで暮らし、愛や赦し等の精神を尊ぶ心は深くなるが、「私は基督教徒（キリスト）となった。そこに無理と虚偽があつた」「基督教の思想で毎日を過ごす、クリスチャンではない」と反省する状態であつた。

庄原に帰り、教会で初めての説教をしたり、帝釈峽（人のいない処）に行つて3日間神に祈るも「どこに行つても悲しいのだ」と思い、出家への思いを募らせていった。

【出家生活に虚偽を痛感】

大正4年¹⁹¹⁵、西田天香の噂を聞き、彼の元で無報酬と喜捨の共同生活を行なう。それは病氣の百三には辛いものであつたが、出家者の理想の姿でもあつたようだ。しかし天香に接するたびに、自らの虚偽と空虚を衝かれる思いがあり、苦しむようになる。天香が「趣味から宗教に入った人は美しい情緒はあつても力と意思との強い実行的権威がないことが多い」「宗教は力と権威を帯びねば」と語る

言葉に肯きつつも、それが遠い彼岸の景色のように感じられ、釈尊・キリスト・日蓮の強さではなく「他人の運命を動かす力無き愛、私は浄土の愛が欲しいのです」と感じるようになった。

同時期、別れた恋人の問題が浮上して居たため、彷徨つたり、或は庄原から広島経由で尾道に向かう途中に三原の糸崎で晴子に会つて、福山警察署の世話になる騒ぎもおこした。百三は言う。真実な人の側にいたお陰で偽物が分かり、自分の心の願や弱さが明瞭に見えてきた、と。

【祖母と姉2人の相次ぐ死】

大正5年¹⁹¹⁶、葛藤を抱えながらも結婚して京都で暮らす、故郷の姉と祖母の危篤の報に接し帰郷する。

百三は12才で長姉・典子の急死にあい「どうしてこんな事があるのだろう。もう永久にあの姉に会うことはないのだろうか」と上野池の堤の周りを彷徨つたというが、25才で祖母が死んだとき、その裏座敷では姉・政子が生後間もない愛児を残して、不起の病につくという有様だつた。しかし政子は死の間際まで意識は水のように澄み、一同に別れの言葉を告げ、両親に慈育を感謝し、祖母の身の上を労い、自ら合掌して念仏してくれよとたのみ、念仏の声に包

まれて消ゆるがごとく往生した。

それを見守る皆も「じきに行くよ」「私もじきじきだ」と一斉に口にし、医者も「このような美しい臨終に立ち会つた事はない」と誉め、百三も「上品上生の死とは斯様なものかもしれない」と慰められる程であつた。その姉の二七日も済まぬうちに、今度は尾道の姉が重篤という電報が届き、その3日後に亡くなつた。

この姉達の死は、百三の無常観や死生観に大きな影響を与える。

百三は同時期、宗藤家の叔父に対し病氣見舞いの便りを送つて「何事も深き因縁ある出来事にて、人間業でなくて、定まりたること」「此の世の命数尽きたら直ちに安養の浄土に往生せらるること疑いなしと存じます」と思いを綴つている。その他、家には多額の負債が発覚したり、持病、姉の遺児の世話などの不幸の連続に、苦しみや不安を吐露する日々を送つたようだ。

【苦悩の中で浄土の愛を描く】

それからは広島府の丹那に転地していくが、このような環境下に思索の月日を送る中で『出家とその弟子』は完成した。作品を書き上げた地は丹那であつたとも、庄原の自宅であつた、とも言われている。



▲倉田百三文学館（庄原園文化センター内）
作家・倉田百三の原稿、著作、遺品、書画、書簡など約400点が展示されています。

この後、十数年ほとんど寝たきり生活になるほど病氣が悪化していくが人気作家の一人として、白樺派の人達や武者小路実篤、高村光太郎、中原中也や、柳原白蓮といった多くの著名人と交流・活動した。

女性問題も複雑でジャーナリズムに取り沙汰されたり、自分の作品で『出家とその弟子』ばかり注目されるのを迷惑がったり、昔のような強さを求めて、弱者からの視点や純粹さを失つてしまふ面もあつたが、生涯を通して、常に厳しく己を見つめて、人間の在るべき姿を模索した求道者であり、文学者であつた。

晩年は「真宗の信仰によりて安心し」「念仏が身体にくつついてきた」と語られた。その求道の旅路の果てに唯信仏語・唯順祖教という念仏の世界に立たれたと思うと感慨深い。

News & 活動情報

安芸教区
災害対策委員会へ

備後教区では「広島市8月20日豪雨災害」に際し、宗派寺院門信徒の方々が災害に遭われた報告を受け、8月28日に災害対策委員会を開いた。そして教区内全寺院、各教化団体へ災害支援金を依頼し、9月末日を以て集計の上、安芸教区災害対策委員会へ送金することが決定した。

それに先立ち、9月3日に教区会議長並びに教務所長は取り急ぎ教区災害対策費より30万円の支援金を届け、お見舞いに伺った。

真宗講座で安居論題

【広報伝道】8月1日(金)、備後教堂にて第7回目の真宗講座が開催された。講師には安方哲爾・本願寺派輔教を迎えて、安居論題の「信一念義」について講義を受けた。

今回も多くの僧侶・門信徒の方が受講され、先生からは論題の判決に沿って分かりやすくお話をされ、一念の意味や信心正因の宗義についてなど学びを深めた。次回は12月25日(木)です。

寺院仏壮結成に向けて

【仏壮】9月6日(土)、福山市アルセを会場に仏教壮年会連盟の谷間徹誠講師をお招きし「第四連



▲谷間徹誠 講師 ▼教区仏壮理事長 深田 篤



▼班別討議をする仏壮会員



区寺院仏壮結成に向けた研修会」が開催された。72名の教区内参加者の内、未結成寺院からの参加者は40名と半数以上を締め、中には仏壮の存在を初めて知る方もいた。今回の研修会において、参加者からは「仏婦の活動は盛んな一方、仏壮の活動は何をすべきか」「お寺に何とか人を集めたい」などの意見や問題点が挙げられた。連盟役員の熱心な寺院訪問により、当初の想定よりも数多くの参加にめぐまれ有意義な研修会となった。

教区月報

8月

1日 真宗講座第7回
2日 仏壮役員会
3日 門推三役会
11日 教堂常例法座
12日 教堂休館(17日)
22日 常備会
28日 災害対策委員会

9月

3日 門推実行委員会
4日 勤式練習会
4日 組長会
6日 新テキスト学習会
6日 同朋社会部会
6日 寺院仏壮結成に向けた研修会(アルセ)
8日 勸学寮真宗講座
(9日 備後教堂)
11日 教堂常例法座
12日 仏婦役員会
16日 キッズサンガ委員会
16日 門推実行委員会
18日 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要(東京)
26日 ビハーク研修協議会
29日 青年布教使大会
(御調西組南光寺)

仏青で仏前結婚式

【仏青】9月6日(土)～7日(日)、「中・四国ブロック真宗青年の集い in Aki」に備後教区から5名の仏青会員が参加した。

今大会は仏前結婚式をメインテーマとし、広島別院本堂での模擬結婚式を見学後、安芸教区東広島組西福寺の根来暁住職に仏前結婚式の意義について講義。夕方からは途中小雨も降る中別院境内にてバーベキュー、参加者一同親睦を深めた。

参加者の中にはお寺で結婚式を挙げることができの今回初めて知った人も多く、雅楽の響く厳かな雰囲気の中、仏祖の御前にて結婚を報告させていただく仏前結婚式に興味関心をもつことのできる大会となった。



グリーンフケアの学び

【ビハーラ】9月26日(金)

備後教堂にてビハーラ備後研修協議会を開催した。講師に龍谷大学短期大学部社会福祉学科准教授 黒川雅代子先生をお招きし、『グリーンフケア』遺族の気持ちに寄り添うこととはをテーマに講義。

遺族会「ミトラ」の代表を務められている先生から、遺族会とはそれぞれの経験や想いを皆で共有していく場(わかしあい)であり、相手の話を聴くこと(傾聴)の大切さについて講義をいただいた。午後からはワークを行い、参加者2名1組で実際に傾聴を実践してみた。聴くとは心の耳で人の話をきくこと、聴き手は相手の気持ちを受け止めながら、共感・感心を示すことで、いかに相手が話しやすい環境を作っていくか、心をこめて傾聴することの大切さを学ぶ研修会となった。



布教大会で節談説教の大家を偲ぶ

【布教団】9月29日(月)、御調西組南光寺(小島照行代務住職)の永代経法要に併せて青年布教使大会が開かれた。出講した青年布教使は島津恵航(世羅組正満寺)、石川知全(沼隈西組正圓寺)、亀山照寿(芦田組西法寺)、三條義見(鴨川北組円福寺)の4名の団員(敬称略)。そして栗原一乗副団長(世羅組浄楽寺)と岡部正顕元副団長(沼隈南組南泉坊)が出講した。

以前、境内にあった「法吼坊」にて指導を受けた岡部同元副団長は節談を交えて、故・野上猛雄



前住職を偲びながらお取次ぎをし、門信徒の方々も懐かしみながらお聴聞をされた。青年布教使にとっても有意義な大会となった。

10月

30日 平和のつどい

1日 勤式練習会

4日 第四連区門推員研修会

(アルセー5日)

7日 後期勤式研修会

(御調東組照源寺)

9日 法務法務専門委員会

10日 門信徒のつどい

11日 教堂常例法座

14日 環境現地学習会(16日)

16日 仏婦会員研修会

20日 総局巡回・公聴会

21日 門徒総代会研修会

(22日)

第19回平和のつどい

今年は「表白」を入れて追悼法要

終戦50年を機に毎年開催している教区主催の「2014(平成26)年度第19回備後教区平和のつどい」が9月30日、岡山県の井原市芳井生涯学習センターで行われた。今回は備中里組、中組、奥組の3組が引き受け組となつて「全戦没者を偲んで 平和を築く道」をテーマに開催。約320人の参加者は「今、戦争犠牲者の思いに応え、真に「平和」を築いていくため」のアピール文を採択し発信した。



▲知花一昌講師

「つどい」は午後1時から3時。開会式の戦争犠牲者追悼法要は備後教区の菊池宗城教務所長を調声に備中里・中・奥の3組の法中が結衆となつて「正信偈和讃六首引」で営まれた。今年は「表白」を入れたのが特徴で、戦没者を追悼し平和への気持ちを新たにした。

講演は「沖縄から見える日本の『平和』。そして親鸞さん」と題して真宗大谷派の僧侶で、沖縄県読谷村元議員の知花一昌講師が約1時間行つた。知花同講師は今、日本は戦争はないが、本当に平和なのか、と問いかけ、沖縄や現在の日本の状況を分析し、真の平和を



▲佐藤英子坊守

築くために念仏の教えに基づいた営みの大切さを訴えていた。また、同氏は沖縄の伝統的な楽器「三線」を奏でて、自作曲や沖縄の歌を披露した。閉会式の挨拶で教区会の常光和信議長は、講師の講演を受け止め「お念仏の教えに生きている私たちは構造的暴力や差別のない社会を目指して生きていこう」と呼びかけた。最後に中組光榮寺佐藤英子坊守がアピール文を朗読して終わった。

(文責・教区報専門委)

2014 Autumn / Winter

11月

- 4日 聞法のつどい
- 8日 中四国若婦人大会(～9日山口)
- 10日 勤式練習会
- 11日 教堂常例法座
- 28日 備後教堂報恩講

12月

- 4日 第3回勸学寮真宗講座(～5日)
- 11日 教堂常例法座
- 15日 憲法問題学習会
- 25日 第8回真宗講座
- 29日 教堂旧館(1月7日まで)

Information Pick Up

備後教堂報恩講

とき 11月28日(金)
ところ 備後教堂 本堂
講師 満井 秀城 師
(総合研究所 教学伝道研究室室長
安芸教区 佐伯西組 西教寺)

第8回 真宗講座

とき 12月25日(木)
ところ 備後教堂 本堂
講師 安方 哲爾 師
(本願寺派輔教 元勸学寮部長
大阪教区 南郡組 正満寺)

野球部が長年の宿敵に…

【備龍会】9月29日～30日、京都で開催された寺青野球大会にて備龍会は2チーム23名で参加。

全国29チーム中2チーム参加は僅か4教区で、備龍会の脇本寿真監督は「多くの寺族青年の参加いただき、大変ありがたい。」「野球という共通の楽しみをもつ全国の青年僧侶が集まって交流と親睦を深める大会。世代をこえて各々の寺院環境での取り組みの情報を交換するチャンスでもある」と、その意義と感謝を述べられた。試合結果、Aチームは一回戦で宿敵(安芸A)に長年の借りを返し、2回戦では優勝チーム(大阪教区・阿修羅)に接戦の末、惜敗しました。Bチームも福岡教区に胸を借りて、楽しみながら大健闘した。

& News



教堂常例法座出講者

(敬称略)

11月「自分を生きる」

小武秀道(三次市正法寺)

12月「弥陀の誓願不思議」

是山宗憲(世羅町真行寺)

2015(平成27)年

1月「仏法は私を聞くこと」

天地秀顕(福山市光林寺)

得度許可

おめでとうございます

〔敬称略〕

比婆組 勝光寺

渡邊 由美(釋清明)

御調束組 正立寺

菅近 知生(釋知性)

(平成26年5月15日付)

芦田組 光秀寺

武田 智衣(釋智衣)

(平成26年7月30日付)

教師授与

おめでとうございます

〔敬称略〕

芦田組 光秀寺

武田 史江(釋史江)

(平成26年6月27日付)

敬 弔

お悔やみ申し上げます

〔敬称略〕

三次組 專正寺

前々坊守

深水 淳慧

沼隈南組 西光寺

衆徒

田頭 昭真

芦田組 長泉寺

住職

内田 守法

沼隈南組 善行寺

前々坊守

熊谷 道子

香典返礼

ありがとうございます

沼隈南組 寶福寺様より香典返礼をおあずかりしました。

●休館のお知らせ

備後教堂では12月29日より翌年1月7日まで冬期休館致します。

●人事について

このたび平成26年10月1日付の人事異動により、教務所主事の釋圍信隆さんが函館別院に異動されました。ありがとうございました。

編集後記

今年は秋の訪れが早かったよう

である。…と、云うより久し振りに秋という季節を体感出来たように思えた。お彼岸参りの途中、ほんのり色づいた木の葉、川の堤の風にゆれるすすきの穂、裏庭に落ちた栗のいが。そこに小さい秋を見つけては、ほっと一息ついた▼先日、寺子屋塾に通って来る小学生が「ヒガンバナって、お彼岸に咲くから彼岸花なんだ!」と、頓狂な声を上げた。何を今更と思うなかれ。そういえば、例年の猛暑、残暑で彼岸花もお彼岸には咲かないらしい。「暑さ寒さも彼岸まで」という諺も通じない感がある▼それでなくとも、季節感が希薄で何かとせわしい現代社会。せめて何処に居ようとも、お彼岸の間には、ふと西に沈む夕日にふと手を合わせ、自らのいのち帰する処に思いを寄せてお念仏をいただきたいものである。(K, M)

『教区報』の編集にあたり、皆様のご意見やご感想、情報の提供をお待ちしています。教区報専門委員会まで、ご一報ください。
TEL(084)924-5759
faxTEL(084)931-9323

「平成26年8月豪雨」被害報告

庄原市、広島市安佐北区・安佐南区

本願寺新報(9月10日)にて掲載されているように8月20日未明に起きた土砂災害では多くの門信徒が犠牲になった。また、8月5日から6日に起きた県北地方豪雨災害でも教区内の門信徒が犠牲者となった。菊池宗城教務所長は教区内の犠牲者の出た寺院へ教区からの見舞いを届け被害状況などを聞き取った。

全国各地で局地的大雨

広島では7月後半の猛暑から一転、8月は青空を見ることが少なく、終日晴れたのは数日で雨の多い月であった。8月6日、開催された広島平和記念式典は43年ぶりの雨の式典となった。「平成26年8月豪雨」は全国各地に大きな傷跡を残した。

教区内門信徒も犠牲者に

8月5日から6日に起きた、広島県北地方豪雨災害では教区内の門信徒1人の犠牲者が出た。また、

8月20日未明の局地的な短時間大雨により安佐北区、安佐南区にて同時多発的に大規模な土石流が発生した。74名の犠牲者の内、門信徒は35名であった。

安芸教区在住の備後教区寺院の門信徒犠牲者は3ヶ寺5名で、山陰教区寺院門信徒が1名、安芸教区寺院門信徒が35名であった。また、安芸教区広島北組2ヶ寺、沼田組4ヶ寺で土砂の流入や墓地等の被害があった。

1人の力は小さくても

多くのボランティアの積み重ねの活動により道などは歩きやすくなっているが、現地に入ると復興はまだ遠いと感じた。しかし、一人ひとりの活動により土砂や、瓦礫が片づけられることで、被災者の方が一歩でも前進していける力になれたらと思う。

尚、ボランティアに行かれる方は10月より平日のシステムが変わっているの、電話やホームページ等で確認して行かれると思います。

御礼と報告

(支援金合計) ¥4,180,834 円
～10月末集計分～

備後教区災害対策委員会より「広島市8.20豪雨災害」支援金募集にご理解とご支援をいただいた教区内全寺院、各教化団体の皆さまへ心よりお礼申し上げます。皆さまからお預かりした災害支援金は全額安芸教区災害対策委員会へお送りしますこと、ご報告申し上げます。引き続きご協力をお願い致します。

▼安佐南区八木地区



▶多くの方がボランティアに参加

